

# むつみ家ももの木保育園建設着工へ

2020年4月の開設目指す



当法人の小規模認可保育園整備事業計画に基づく「むつみ家ももの木保育園」の新築工事が4月中旬、建設予定地の水沢上庭地区内法人所有地で始まりました。それに先立ち3月22日には当施設むつみホールにて関係業者11社による指名競争入札、4月10日には現地にて地鎮祭(左写真)がそれぞれ行われました。園舎完成予定は10月。2020年4月の開設に向け、今年度は長野市保育幼稚園課をはじめとする関係各機関との協議・調整、ハード・ソフト両面からの保育運営体制の準備を計画的に進めていきます。

当施設内には認可外の事業所内保育施設「やすらぎの園託児所」があり、平成27年10月の開設当初より職員のお子さんを対象として保育を行ってきましたが、社会的に高まる3歳未満児の保育ニーズに応えるべく、昨年6月より地域のお子さんの受け入れを開始し、昨年度は3名のお子さんを受け入れました(年度末までに卒園)。一方で、地域の保育ニーズを把握するため、近隣企業とその従業員、新興住宅が広がる杵淵東・杵淵西地区において独自に保育ニーズアンケートを実施。その結果を踏まえて、長野市保育幼稚園課に相談・協議を行って来ました。そして、2020年4月の小規模認可保育園開設に向け、本格的に動き出すこととなりました。保育園の名称は、長野拠点全職員の投票により「むつみ家ももの木保育園」と決定。保育理念である未来を拓く子どもたちの「生きる力の基礎力」を育み、地域における子育て支援の拠点として地域児童福祉の向上に貢献するための保育園づくりを進めていきます。

【小規模認可保育園】平成27年度より施行された「子ども・子育て支援制度」にて新たに認可事業化された地域型保育事業の一つで、0～3歳未満児を対象とした定員6人以上19人以下の少人数で保育を行う。

## やすらぎフォトギャラリー

当施設のさまざまな取り組みを皆様に写真でお届けします。



豆まき・託児所(2月)



ボランティア懇談会(2月)



県議選不在者投票(4月)

四月三十日、これまで慣れ親しんだ「平成」が幕を閉じ、翌五月一日、新たな時代「令和」が始まりました。それに先立ち「令和」が新元号として四月一日に発表された時には、正直申し上げて「あまりぱっとしないな」と感じましたが、それから改元までの一ヶ月の間に何かと目に触れ、耳にするにつれて段々と「わりと良いかも」と思えるようになってきました(筆者個人の感覚的な問題です)。

平成の時代を象徴するものの一つに携帯電話(スマートフォン)の進化があると思います。学生のころ、ちよつとリッチでちよつと時代を先行く同級生が学食のイスにもたれて電話をしていた姿を懐かしく思い出します。その後、携帯電話はどんどん小型化・機能が充実し、見る見るうちに普及していききました。そしてスマートフォンが登場。新しいコミュニケーションツールとして、また、わからない事はインターネットですぐに調べることができ、ゲームから商品購入の支払いまで何でもこなせる生活必需品となりました。こんな時代が来るとは平成が始まった三十年前には到底想像もできませんでした(少なくとも筆者には)。

令和の新時代、これからどんな未来が我々を待ち受けているのでしょうか。AI(人工知能)が確実に進化を続けていくのは想像が付きませんが、それが人類にもたらす恩恵と脅威は凡人には計り知れません。

とはいえ、心配ごとの大半は単なる「心配ごと」でしかなく、実際には起こらないことも多いといえます。「まあいいか」と時の流れに身を委ねてみるのも案外良いかもしれませんね。ヨシタカ

※紙面上の入居者様の写真は、ご本人及びご家族の了承を得て掲載しています。

## 編集後記

## 令和元年・開花事業への決意

います。新規事業の着実な成功に努力していきます。

## 外国人技能実習生受け入れ



モンゴル国より2名入職

三月二十八日、外国人技能実習生入職式が当施設会議室にて行われました。今回はモンゴル国より二名の技能実習生が入職し、やすらぎの園開設以来四十一年目にして初めての出来事となりました。外国人技能実習生の受け入れについては、平成二十九年十一月の法改正により技能実習生の対象職種に介護職が追加されたことを受け、発展途上国への国際貢献と今後の介護人材の確保という視点より、当法人においても検討を行って来ました。入職式では、中沢理

事長より辞令を受け取り(左上写真)、緊張した面持ちの中にも笑顔もみられ、日本語でのあいさつからは希望と将来を見据えた思いが伝わってきました。また、理事長あいさつ、中島統括施設長訓示では、モンゴル語が堪能な職員による通訳を挟み、激励の言葉に笑顔でうなずく姿が見られました。入居者代表としてやすらぎの園町内会長も式に参列し、温かいあいさつをいただきました。式の最後には長野県民にはなじみ深い県歌「信濃の国」を参加者全員で歌い、実習生を歓迎しました。

家族と離れ、言葉も文化も違う異国で新しい仕事にチャレンジする志の高さには感服します。そんな実習生を職員全体でサポートし、お互いにとって最大の効果が得られるよう支援体制を整えていきます。

昨年度は施設開所四十周年を感謝で過ごし、今、平成元号では最後となる三十一年度事業がスタートしました。

そして、新元号「令和元年」ともなる新たな章が始まる節目の年にも当たり、その中、改元の年に合わせたかのごとく従来からの長期計画で「種を蒔いてきた」様々な事業が開花していきます。

一つには、初の外国人技能実習生の受入とその育成事業です。年々を超えて関係機関との様々な手続を経て、三月下旬、モンゴル国より二名の実習生が入職しました。本国の大学や日本語学校で学び、難解な日本語の資格試験に合格、家族と離れ、文化や日本での生活様式等を克服しながら、日本の介護技術や知識を意欲をもって学ぶ優秀な実習生です。

大草原の大地が育てた優しい笑顔と自然な姿とまじめな行動は入居者様や職員から大変好感が持たれています。皆で大切に育てていく所存です。施設の将来展望の一つの明るい希望の道ができたことを感じています。

二つ目は、児童福祉事業への挑戦です。施設近郊商業地域の中心に、地域ニーズが高い三歳未満児保育である、小規模認可保育所を建設し、社会福祉法人として新たな地域貢献を果たしていただくことです。様々な段階を経て四月初旬に地鎮祭の運びとなり、本年十月末の無事竣工を目指して

三つ目は、ユニットリーダー研修実施施設への登録に向けた行動です。木のぬくもりある全室個室型のいわゆるユニットケア実践にはその本来のユニット理論に基づく確立した運営基準・手法があります。未だユニットケアを行う施設が弱小の中、市内でいち早く一六床個室型を開設した当施設は、今後必要とされる全国のユニットリーダーを育成する先進施設でなければなりません。

その洗練された教育施設となるには、困難な様々な課題を乗り越え、更なる運営上のレベルアップを図らねば登録とはなりません。全ての職員一人一人の意識向上が絶対条件となります。この登録への行動は、ひいては入居者様の生活向上や職員資質の向上、業務へのやりがいへと繋がっていきます。

これらの将来につながる希望の行動は、多くの福祉を学ぶ学生にも届き、今年も七名もの意欲ある期待の新卒専門職を迎え入れる事ができました。

先ほど令和初日の出勤で、明治から令和の五元号を過ごされた元氣なKさんと手を取り合い、改元の喜びの時間を過ごしました。今年度も元氣で着実な運営が果たせるよう、二〇五名の全職員及び関係者各位の一層の努力に期待します。共に頑張りましょう。令和元年よろしくお願ひします。

やすらぎの園統括施設長  
中島 謙二

# ほほえみ新聞

THE Yasuragi

http://m-yasuragi.com

ホームページもご覧下さい

2019年5月発行(第61号)

編集:やすらぎの園 広報部

E-Mail: nagano@m-yasuragi.com

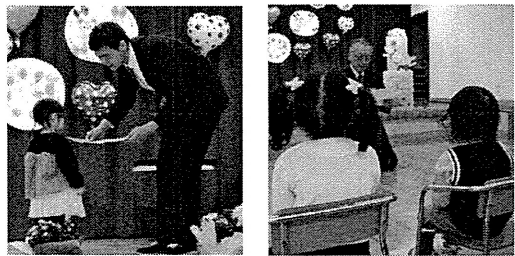
所在地:〒388-8019

長野市篠ノ井杵淵213-4

TEL026-293-2600 Fax026-293-2959

# 第2回 やすらぎの園託児所卒園式

4名の子どもたちが卒園



三月二十九日、当施設内の認可外保育施設「やすらぎの園託児所」の第2回卒園式が地域交流ホール「むつみホール」で開かれました。昨年度より地域からのお子さんの受け入れを開始し、卒園式では職員のお子さん二名、地域のお子さん二名の計四名が卒園を迎えました。

当日は、園児のご両親を始め、施設ご入居者、職員も大勢参加し、卒園式を盛り上げました。式は卒園証書授与、中島統括施設長のあいさつ、託児所での思い出を振り返るスライドへと進み、出席者それぞれが子どもたちとの別れを惜しむ一方で、大きく成長した姿に感慨深げに涙を浮かべる姿も見られました。

定員五名の小さな託児所ですが、先生もお友達も周りの施設職員もみんなが顔見知りのアットホームな環境です。ここで過ごした時間を今後の長い人生の中でほんの少しでも覚えていてくれたらうれしいです。卒園児の皆さんおめでとう。またいつでも遊びにきてくださいね。

# じゃがいもの植え付け

(遊) やすらぎ農園にて

4月18日、当施設の畑「(遊) やすらぎ農園」にて毎年恒例のじゃがいもの植え付けが行われました。当日は施設外周のさくらが満開で、温かな陽気に誘われて例年より多くのご入居者が参加されました。畑には鋤で2本の溝が掘られ、そこに等間隔で種芋を並べていきます。託児所の園児もお散歩途中に立ち寄って植え付けを手伝ってくれました。



あまりにもお天気で気持ちが良いので、さくらの花びらがひらひらと舞う中、参加したみんなでお茶を飲み、歌を歌い、また職員が謡を披露するなど平成最後のお花見もついでに楽しみました。収穫は真夏の7月下旬頃。今年はどのくらい収穫できるでしょうか。今から楽しみです。

# 激走 長野マラソン

4月21日に行われた第21回長野マラソンにやすらぎの園から今年は5名のランナーが出場しました。当日は、薄曇りの肌寒い陽気でしたが、ランナーにはまずまずのコンディションであったようです。沿道から多くの皆様の声援に後押しされ、出場したランナーがそれぞれに力を出し切りました。選手の皆さん大変お疲れさまでした。来年は今年以上の記録更新を期待しています。

- ◆ 岡宮 拓哉 (特養事業部次長) 4:51:19
- ◆ 酒井 和美 (宿直) 4:52:35
- ◆ 中村 知子 (短期介護士) 4:55:05
- ◆ 田中 宏子 (柴やすらぎ/介護士) 5:08:53
- ◆ 六波羅 直貴 (副統括施設長・総務部長) およそ30km 地点

# オレンジカフェ やすらぎ

- ◇ 日時：毎月第2火曜日 AM10:00~12:00
- ◇ 場所：やすらぎの園(篠ノ井杵淵) 地域の縁側 いこい広場
- ◇ 参加費：100円

どなたでもご利用できます。  
カフェスタッフ(ボランティア)の他、介護の専門職も参加しています。

お気軽にお出掛けください。

# 2019年度 始動

新人職員7名入職



新採用職員と中沢理事長(中央左)、中島統括施設長(右)

二〇一九(平成三十一年)四月一日、新採用職員七名を迎え、二〇一九年度新採用職員入職式及び事業始業式が行われました。

会議室にて行われた入職式では、中沢理事長より新採用職員に対し、社会人となり苦しい場面にも出くわすと思うが、「己に勝つ」ということを忘れずに頑張ってもらいたいとの挨拶があり、続いて中島統括施設長より激励の訓示を受けました。新採用職員それぞれが緊張と不安の中にも、大きな期待と希望を胸に新たな第一歩を踏み出しました。

場所を移し、むつみホールにて行われた事業始業式では、辞令交付が行われ、名前を呼ばれた職員一人ひとりが自らの決意を新たに辞令を受け取りました。

今年度は、元号が「令和」と変わり、新しい時代が始まります。法人理念にある「時代に即した質の高いサービス」を追求し提供することができるよう、これから加速する少子超高齢社会に見通しを持ち、計画的に施設運営がなされるよう取り組んでいきます。

# ユニットリーダー研修実地研修施設に向けて

やすらぎの園ユニットケア推進計画



ユニット玄関の設え(東館1丁目)

【ユニットリーダー研修実地研修施設】の整備を進めてきました。今年度は、それらの集大成としていよいよユニットリーダー研修実地研修施設への登録申請を行います。事前の書類審査(6~7月)を経て現地調査を受け(8~10月)、12月には選定結果が通知される予定です。選定基準は厳しく、険しい道りであることは確かですが、これまでの3年間に積み重ねてきた成果をもとに北信地区で初となる「ユニットリーダー研修実地研修施設」に選ばれるよう職員一丸となって取り組んでいきます。

平成27年4月の施設建替えにより全室個室のユニット型特養となったやすらぎの園。平成28年度よりユニットケア推進計画を打ち出し、ユニットリーダー研修実地研修施設に登録することを目指し、これまで3年間取り組んできました。施設での生活が家庭での生活の延長線上にある「暮らし」となるように、ユニットリーダーを中心に住環境を整えるとともに、ご入居者一人ひとりの意向や生活リズムの把握及びご家族との連携、それらの情報を関係職種で共有のための記録様式の整備と一元化などを進めてきました。今年度は、それらの集大成としていよいよユニットリーダー研修実地研修施設への登録申請を行います。事前の書類審査(6~7月)を経て現地調査を受け(8~10月)、12月には選定結果が通知される予定です。選定基準は厳しく、険しい道りであることは確かですが、これまでの3年間に積み重ねてきた成果をもとに北信地区で初となる「ユニットリーダー研修実地研修施設」に選ばれるよう職員一丸となって取り組んでいきます。

# お花見の会



4月6日、春の恒例行事、お花見の会が22家族27名の皆様をお招きして開催されました。

この冬は暖冬傾向で、さくらの開花も早まるかと思われましたが、3月終わりからの寒さもあり、当日は施設外周のさくらの花はつぼみがほんのり色付く程度。それでも、お天気は風は強かったもののまずまずで、ご入居者の皆様は、ご家族や職員と共に千曲川の土手まで散策に出かけました。土手の上からは、西側に典厩寺の早咲きのしだれ桜が三分咲き程度でしたが淡いピンク色に色付き、背景の北アルプスの残雪の白色と調和してとてもきれいでした(写真左)。また、散策の途中で甘酒が振る舞われ、甘酒を飲んで一息入れながら、春の柔らかな日差しの中、記念写真を撮ったり、それぞれのペースで散策を楽しみました。